

● 臨床栄養部のご案内

臨床栄養部 栄養士長 小野澤 聡子

● 地域医療とつなげる栄養支援 —栄養情報提供書の活用について—

入院中の栄養管理を地域医療につなげる取り組みとして、退院時に医療機関や施設・在宅向けの『栄養情報提供書』を作成しています。地域医療機関の先生方や管理栄養士の方々へ情報伝達・共有を行うことで、退院後もきれ目のない栄養支援を行うことを目的としています。令和6年度には、足立区版 栄養情報提供書「食をつなげるシート」を作成する活動に参加し、その取り組みを通じて当院の栄養情報提供書をより充実させました。

● 栄養情報提供書の主な内容

栄養評価（体重変化、BMI、摂食状況など）、栄養管理上の問題点（低栄養、嚥下・食欲低下など）、食事形態や栄養補助食品の使用状況、入院中に行った栄養指導内容、退院後の栄養支援における留意点などを記載しています。

● 今後に向けて

栄養管理は、疾患治療や QOL維持に欠かせない要素です。地域の先生方と情報を共有しながら、多職種連携による栄養支援をさらに充実させていきたいと考えています。

当院の嚥下調整食の目安

食種	ゼリーとろみ食	ペースとろみ食	ソフトとろみ食	軟菜とろみ食
				
学会分類 ※1	コード 1	コード 2	コード 3	コード 4
UDF 区分※2	かまなくてよい	かまなくてよい	舌でつぶせる	歯ぐきでつぶせる
写真のメニュー	・とろみ付き重湯 ・野菜スープ ・とろみジュース ・ヨーグルト	・ゼリー粥 ・鶏ひき肉のあんかけ ・キャベツのお浸し ・小松菜の煮浸し	・MCT 粥 ・焼き鯖 ・サツマイモの甘煮 ・トマト	・MCT 粥 ・鶏ひき肉のあんかけ ・キャベツのお浸し ・小松菜の煮浸し
形態	とろみ付き。均質で付着性、凝集性、かたさ、離水に配慮したゼリー、プリン状のもの。	とろみ付き。ピューレ、ペースト、ミキサー食などべたつかず、まとまりやすいもの。スプーンですくって食べることが可能。	とろみ付き。形はあるが、押しつぶしが容易、食塊形成や移送が容易、咀嚼でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの。多量の離水がない。	とろみ付き。かたさ、ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないもの。箸やスプーンで切れるやわらかさ。

※1 日本食摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2021 ※2 ユニバーサルデザインフード

・水分のとろみは学会分類 2021（とろみ）の「薄いとろみ」「普通とろみ」「濃いとろみ」を選択できます。
・ゼリー粥にはソフティア U（酵素入りゲル化材）を使用しています。
・MCT 粥は全粥に MCT オイルを混ぜています。

東京女子医科大学附属足立医療センター 臨床栄養部

● ヘルスケアセミナー開催報告

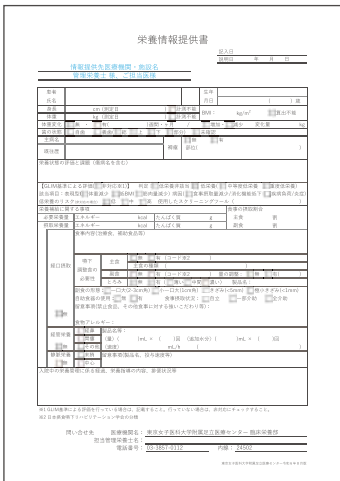
患者サポートセンター 主任 水野 紀子

当院では毎月第2第4金曜日の13時～13時30分に、入り口正面ラウンジにて実施しています。

1月はリハビリテーション科の理学療法士による『日常生活でできる!「ちょい足し」筋トレ術』を行いました。約15名の聴講者の皆さんと一緒にタオルを使った体操を実施し、和やかなセミナーとなりました。「ちょい足し」でより健康的な一年を送りたいですね。



←1/9(金)の様子



Topics

広報誌トピックス



東京女子医科大学 附属足立医療センター

Tokyo Women's Medical University
Adachi Medical Center

Contents

- ・新年のご挨拶
- ・放射線科診療案内
- ・臨床栄養部のご案内
- ・お薬教室開催報告



2026
新年号
Vol.02

新年のご挨拶

2026(令和8)年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当院と連携いただいている医療機関の皆さまには、日頃より温かいご支援とご指導を賜り御礼を申し上げます。

当院は急性期医療の基幹施設として、各診療科の専門性を活かした高度医療はもとより、包括的ながん診療にも一層取り組むことで地域の発展に貢献できることをめざしてまいります。本年は丙午にあたり、皆さまにとりましても大きく飛躍と成長の年となりますことを心より祈念いたします。



院長
しおざわ しゅんいち
塩沢 俊一

新年あけましておめでとうございます。

本年も、私が担当しております診療支援・連携部門および管理部門を通じまして、地域の皆様へ安全で質の高い医療を提供できるよう尽力してまいります。皆様方の高度急性期医療と救急医療を担う拠点として、地域医療機関との連携をさらに強化し、患者様が安心して治療を受け、円滑に地域へ戻れる体制の充実に努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長
たかぎ ひろし
高木 博

理念

センターは、「至誠と愛」の心をもって人に接し、最善の医療を実践し、社会に貢献するとともに全人的医療人を育成することを理念とする。

基本方針

1. 患者視点に立った、きめ細やかな温かい心の通った医療を実践します。
2. 先進医療の推進や高度医療の提供に尽力し、チーム医療と質の高い安全な医療を提供します。
3. 医療連携を通して、地域住民の健康推進に貢献します。
4. 創造的知性と豊かな人間性を有する医療人を育成します。



財団法人日本医療評価機構
認定病院

● 新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。
副院長として本学の労務と卒後研修センターを担当しております。今年は午年であり、行動力や冒険心に後押しされる年とされ、迷って止まるより新しいことに挑戦するのにふさわしい年と言われていきます。我々は、新生女子医大として昨年より再出発しており、本年はより飛躍できるように日々努力する所存でございます。先生方と密に連携しながら患者さんのための医療を展開できればと思っております。本年もどうぞ高配のほど宜しくお願い申し上げます。



副院長
おがわ てつ や
小川 哲也

新年明けましておめでとうございます。
医療安全は、すべての診療の基盤であり、私たち一人ひとりの行動が患者さんの安心と信頼を形作ります。本年も、重大事例ゼロを目指すだけでなく、ヒヤリ・ハットや小さな改善を積み重ねる文化をさらに育ててまいります。部門を横断した連携と学びを共有し、皆様と共に安全な医療環境を築いていく一年にしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



副院長
くぼた ゆういち
久保田 有一

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
眼科の須藤史子でございます。

診療担当副院長として外来運営・病床管理・救急診療運営を担当しております。

院内の現場からの声に耳を傾け、地区医師会の先生方や救急隊の皆様方のリアルなご意見も頂戴し、各種の作業部会を多職種で立ち上げ、安全安心な医療のための体制構築に奔走致しました。貴重なご指導を賜り、誠にありがとうございました。本年は昨年得た学びを活かし、一層精進して参ります所存です。

引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



副院長
すとう ちか こ
須藤 史子

あけましておめでとうございます。
看護部門担当副院長・看護部長の木所です。

私たち看護職は患者さんの安全を第一に考え、心のこもった看護を提供し、「至誠と愛」を実践しています。そして、地域における当院の役割を理解し、地域の方々の健康推進のために様々な発信をし、活動して参りたいと思っております。

今年は「午年」です。この「午年」にあやかり、笑顔で力強く駆け抜ける１年にしていきたいと思っております。本年もよろしくお願い申し上げます。



副院長
きどころ あつ こ
木所 篤子

● お薬教室開催報告

薬剤部 薬剤部長 伊東 俊雅

明けましておめでとうございます。本年も薬剤部一同、「至誠と愛」の理念のもと、地域医療への貢献に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、2025年11月29日(土)、足立区江北学習センターとの共催企画「女子医大足立医療センター薬剤部へ行ってみよう!」を開催いたしました。本企画は移転後4回目の実施となり、当日は小学3年生から6年生までの児童14名が参加しました。

開会式では、塩澤俊一病院長より、「薬剤師の仕事を実際に見て体験し、楽しんでください。そして将来、地域の人々のために病院で働いてもらえたらうれしいです」との挨拶がありました。

院内見学の後、子どもたちは「お薬づくり体験」に挑戦しました。シロップに見立てたジュースの計量や、ラムネをすりつぶして分包機で小分けにするなど、薬を調製する際の基本的な作業を体験しました。丁寧さが求められる工程にも、子どもたちは真剣な表情で取り組んでいました。参加した小学6年生の女の子からは、「体験を通して、薬剤師の仕事のすごさを感じ、将来なりたい気持ちがより強くなりました」との感想が寄せられました。

今後も薬剤部では、地域の皆さまに医療や薬剤師の仕事を身近に感じていただける取り組みを継続してまいります。



● 放射線科診療案内



足立医療センター放射線科（当科使用のCT装置のご紹介）
放射線科 副部長 荻安 俊哉

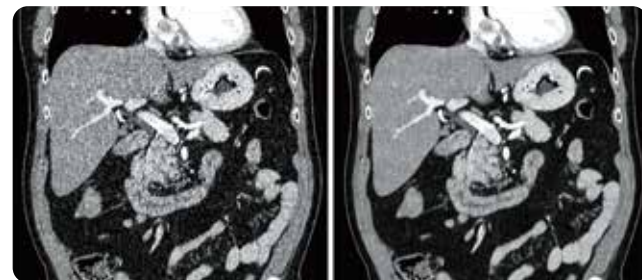


図1 [Revolutionの写真]

更に新たなCT撮影法であるデュアルエネルギー撮影も可能であり、これにより造影剤の使用量を大幅に低減し、患者さんの負担を軽減できます。

デュアルエネルギー撮影は、造影剤の低減だけでなく、従来のCTでは得られなかった画像・情報が取得可能なため、従来評価が難しかった病変の診断能向上が期待できます。

図3 [DECTの写真]



通常量の造影剤量を用いた
従来CT画像

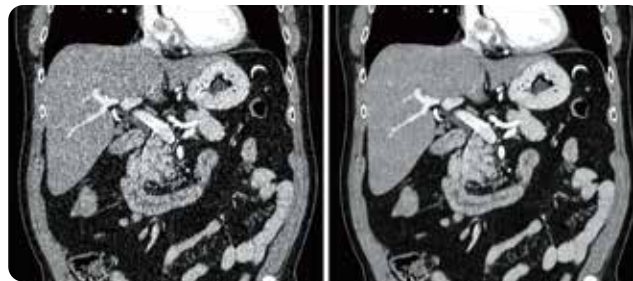
造影剤量を半減した
デュアルエネルギーCT画像

デュアルエネルギー撮影を行うことにより、造影剤を半分に減らしても、通常の造影剤を用いて行った従来CT撮影と同等の造影効果が得られます

放射線関連の装置は日々進歩しており、より詳細な診断を患者さんの負担が少なく行うことが可能になっております。

足立医療センター放射線科にGEヘルスケア社製の256列CTであるRevolution Apexが導入されており、広範囲を高速にかつ高分解能で撮像することが可能です。AIを用いたノイズ除去にも対応しており、あわせて低線量での撮像（被ばくの低減）にも対応しています。

図2 [ノイズ低減]



AIによるノイズ除去を
使用していない画像

AIによるノイズ除去を
使用した画像

AIを用いたノイズ除去を使用することにより、線量不足によるノイズ（画像のざらつき）が低減されます

放射線科では、医師・看護師・診療放射線技師・事務員で構成されており、多職種一丸となったチーム医療を行っています。

足立医療センター放射線科高額医療機器共同利用のご紹介

放射線科では地域医療への貢献を目的に、放射線科の高額医療機器を共同利用する医療連携を推進し地域の先生方からの検査依頼に対応しております。

読影につきましては、放射線診断専門医が迅速かつ的確な診断をご提供いたします。検査では精通した診療放射線技師・看護師・事務職員が各職種一丸となり、チーム医療を実践しております。患者さんのご紹介や検査に関するご相談など、どうぞお気軽にお問い合わせください。

予約～検査結果まで

- 病院代表 (03-3857-0111) にお電話ください。
応答後、「2」の医療福祉機関を選択いただき、その後「1」を選択しますと予約センターにつながります。
- ご希望日をお伝えいただき予約をお取りください。
ご予約後、予約依頼書 (FAX 専用) を
地域連携室へ FAX してください。(03-3857-0117)
- 検査当日は、マイナ保険証と診療情報提供書 (紹介状) を持参し初診受付で受付してください。
その後放射線科にて検査し、会計窓口でお支払い⇒終了となります。
- 検査結果 (画像データ・読影レポート) は、
3診療日 (心臓CTは5診療日) 以内に発送いたします。

医療連携 イメージ図

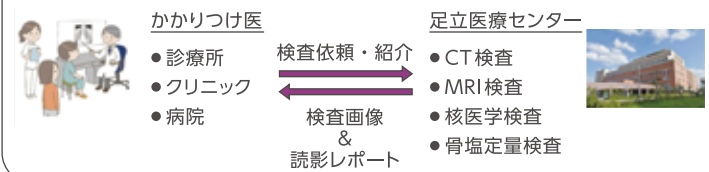


図4 [地域医療連携のイメージ図および依頼方法]